

「都内あるき」＝日頃、近くを通りながら、ゆっくり見たことなさそうな町並みを観たらとの、栗林さんのお誘いで、2015年4月12日に野村さん、丸田さんご兄弟、同奥様、井田さん、三海さん、高橋夫婦、それに栗林さんの9名で東京駅＝江戸城のお膝元を観光した。

身近な観光スポット＋美味しい食事は大変に魅力的なプランです。

計画の、一つは、江戸時代の訴訟が行われた「お白州」として、大岡越前守で有名な南町奉行所跡と北町奉行所跡。その二として、慶長年間（1610年頃）から明治8年（1875）まで約260年間、未決囚を収監し、死刑囚を処断する施設であった小伝馬町牢屋敷。これは現在の「NHK大河ドラマ：花燃ゆ」の中心人物：吉田松陰が斬首された場所でもあります。その三として、古く平安時代に京都から平将門の首が空を飛んで帰還したという将門塚、を予定しました。

所が、残念ながら奉行所あとは見付かりませんでした。市販の1000円あまりの都内地図帳では縮尺がラフで名前はあるものの、詳細な場所・対象物が判りません。仕方なく「君の名は」で有名？な銀座・数寄屋橋の交番で尋ねましたがダメでした、時代が違うのですね。

後ほどウェブで調べると記念碑の場所と写真がしっかりありました。結論として、これからの都内歩きには誰かがスマートフォンを持って歩き、その場でネット検索するのがよさそうです、時代が違うのですね。



有楽町駅の南町奉行所跡の碑



東京駅の北町奉行所跡の碑

将門塚は、これと比べてサイズも大きく盛大な供養がされているのですぐ見付かりました。盛大なお花線香が供えられており、当日も将門塚保存会の方が供養され、東京都教育委員会・千代田区教育委員会の掲示板がダブってありました。ご承知の様に平安時代末期940年ころ、関東の豪族である平将門が、一時は東国を支配したものの京都の中央政府と衝

突して破れ、斬首されて、首は京都におくられたものの、空を飛んで東国に帰ってきた（帰る＝カエル＝蛙）といい境内にカエルの置物の奉納が多数あります。千葉県成田市の成田山新勝寺は、東国の混乱をおそれた朱雀天皇の密勅により寛朝僧正が、京の高雄山（神護寺）護摩堂の空海作の不動明王像を奉じて東国へ下り、平将門を調伏するため儀式を行ったとの話があるなど、周囲から恐れられる怨念の歴史があるようです。蛙の置物は左遷になった会社員が、元の会社が無事に帰ってこられるように、蛙を供える。誘拐されたり、行方不明になった子供が無事帰ってこられるように、蛙を供える。などの言い伝えだそうです。



将門塚の石碑



カエル＝帰るの置物

傍らの東京消防庁わきでは、日曜日のこととて自転車専用道路が開設されスイスイと走っておりました。



日曜日の自転車天国



東京消防庁も自転車天国に協力

小伝馬町牢獄あとは、現在は東京都中央区立十思公園となっており、吉田松陰終焉の地との石碑に、辞世の『身わたとい武蔵の野べに朽ちぬとも留置（とどめおか）まし大和魂十月念五日 二十一回猛士』が掘り込まれている碑がありました。二十一回猛士とは、杉と吉田の漢字を分解して「二十一回」と読み、死ぬまでに全力をあげて二十一回の行動を起こすと自分に誓ったもので、好んでこの号を使ったとのこと。長州藩の山鹿流の兵学指

南の家をついだ兵学の専門家として、己の命をかけて、自説を主張し・実践したのだと思いました。

その後は、日本橋室町に新しく建った高層ホテルから周囲を見渡し、そのご昼食を頂きました。何やかやで合計30,000歩となるウォーキングを満喫しました。



伝馬町跡の十思公園



栗林さんと参加者たち



右側は「松蔭先生終焉の地 文部大臣男爵 荒木貞夫 書」の碑

左側は『身わたとい武蔵の野べに朽ちぬとも留置（とどめおか）まし大和魂
十月念五日 二十一回猛士』の碑です